

民主化闘争情報

No. 845
2011年12月9日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

12月5日の衆議院予算委員会で自民党の河井克行議員が質問に立ち、JR総連・東労組への革マル派浸透問題について多岐にわたり政府の見解を問い質した。

衆議院予算委員会で追及されるJR総連革マル浸透問題Vol.2

山岡国家公安委員長がJR総連・東労組への革マル浸透を認める!

今号では前号に引き続き、野田内閣総理大臣および山岡国家公安委員長のJR総連・東労組への革マル派浸透問題に対する認識などに関係する質疑の概要を掲載する。

(河井議員) 5月11日に、当時の鳩山由紀夫内閣総理大臣から衆議院議長宛に答弁書が送られてきました。ここで、その時、鳩山内閣で、政府がJR東労組をどのように認識していたかということについて紹介したいと思います。「日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としている極左暴力集団であり、これまでも、火炎びんの使用等の処罰に関する法律違反事件や対立するセクトとの間での殺人事件等、多数の刑事事件を引き起こしている。革マル派は、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており、全日本鉄道労働組合総連合会及び東日本旅客鉄道労働組合内には、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している。今後も、革マル派は、組織拡大に重点を置き、党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っていくものと見られる」。総理大臣の革マル派に対する認識は、この鳩山内閣の答弁書と同一と考えて良いですね。

(野田内閣総理大臣) 政府の答弁と同一でございます。

(河井議員) では、山岡大臣におたずねをいたします。あなたのご認識をお聞かせください。

(山岡大臣) 革マル派というのはそういうものだと思っております。政府の認識と同じです。

(河井議員) いや、革マル派とは、だけじゃなくて、もう一度言いますよ。JR総連及び推薦議員団の代表を務めている東日本旅客鉄道労働組合内には「影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると認識している」。あなたも同じ認識ですね。

(山岡大臣) そういう情報があるということは聞いております。

(河井議員) 情報があるんじゃないんですよ。民主党が作った鳩山内閣総理大臣時代もこの答弁書は閣議決定している。現職の野田佳彦総理大臣も政府の答弁と同じだと答弁された。あなたは違うんですか。「情報がある」と「認識している」は全然違いますよ。この政府答弁書どおりの認識で間違いありません、国家公安委員長殿。

(山岡大臣) 政府の一員として、そのとおりでございます。

(河井議員) 政府の一員として、ということは、個人では違うということですか。一人の政治家としては、この認識は自分と違うということですか、お答えください。

(山岡大臣) あの、率直に言ってですね、私は実態がどうなのかということを確認しているわけでありませぬ。政府がこういうことであるので、そうであるということでございます。

(河井議員) あなたは単なる国務大臣の一人じゃないのですよ、今のお立場は。この質問に答える立場は。あなたは主管大臣ですよ。全国の警察組織、公安も含めて、その全てを締める立場にある国家公安委員長として、今答弁されたんですか。もう一度、ハッキリと言っていたきたい。革マル派とあなたが推薦議員懇談会の代表をしている、そして来賓の挨拶、連帯の挨拶をしたと向こうが言っている、東日本旅客鉄道労働組合との関係、ハッキリとお答えいただきたい。

(山岡大臣) 繰り返しお答え申し上げますが、国家公安委員長としては、総理のおっしゃったとおりの認識でございます。

(河井議員) もう一度おたずねをしますよ。今あなたが座っているイスは国家公安委員長ですね。国家公安委員長として、明確に総理も今言ったじゃないですか、JR東労組の中には影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透している、その認識で間違いありませんと聞いているのです。イエスかノーかしかないんですよ、これは。

(山岡大臣) 何度もお答えしておりますが、国家公安委員長として、イエスです。